

# 地域密着型サービス事業者 自己評価表

( 認知症対応型共同生活介護事業所 ・ 小規模多機能型居宅介護事業所 )

事業者名	グループホームつつじⅡ(第三ユニット)	評価実施年月日	平成21年11月26日～平成22年1月25日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年2月23日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>独自の運営理念の他に、5つのポリシー(方針)があり、それに沿ってサービスを提供している。</p>		<p>運営理念の中に、地域に根ざした文言を加えた。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>運営理念を玄関先など、目がとまる所に、掲示している。社内研修にも取り入れ、再確認し、実践出来るように努めている。</p>		<p>日々の生活の中で理念を念頭に置き、今後も実践していきたい。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>玄関先やフロアの入り口など、目の届きやすい所に掲示しており、入居の際にも説明している。又、運営推進委員会などにおいても理解してもらえるように、説明し、取り組みを行った。</p>		<p>運営推進委員会の中で、日々の暮らしや取り組みについての報告をお写真を見て頂きながら行い、意見交換をしている。今後も、地域との交流の場を大切にしていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>散歩時などに近所の方にご挨拶している。ホームの中庭では、近隣の施設の方々もベンチで自由に休まれている。</p>	○	<p>小学校の運動会に出掛けたり、雪明りの路では、地域の小学生たちが、ボランティアでオブジェ作りに来て下さった。今後もお互いの行事に参加する機会を継続し、関係を深めていきたい。</p>
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>地域のお祭りでは、子供みこしが、ホームに来て下さった。又、幼稚園児が遊びに来て下さり、歌や踊りの披露・メッセージカードのプレゼントがあり、楽しく交流が出来た。</p>		<p>運営推進委員会で、地域との交流や取り組みについて、お写真を見てもらいながら、意見交換をしている。今後も地域との交流を大切にしていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>ウエス寄贈などにより、関係の出来ている地域の方に対し、ホームで介護相談を受け付けている事をご案内している。</p>	○	<p>今後は、ホームの特性を生かして、認知症の勉強会など企画していきたい。又、地域の方から気軽に、介護相談が持ち込まれるような関わりをしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>自己評価など職員に記入してもらい、職員全体が理解し、活かせるように取り組んでいる。評価後の足りない部分については、改善計画シートを作成し、具体的な改善に取り組んでいる。</p>	○	改善点を把握し補って、より良いホーム作りに努めたい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2か月に1回開催し、日々の取り組みを報告し、話し合っている。そこで出た意見をサービスの向上に活かしている。</p>		運営推進委員会で、自己評価・外部評価についての報告を行っている。改善に向けた取り組みを今後も意見交換しながら、サービス向上に活かせるよう努めていきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>電話にてアドバイスを受けたり、窓口で相談している。</p>		市町村と共に、サービスの質の向上に取り組めるような機会を作っていきたいと思う。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>社内研修に取り入れ、理解に努めている。</p>		今後も、研修を続け、理解を深め、知識の向上に努めていきたい。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>定期的に委員会を開催している。日々の中でも、職員同士が注意を払い、確認しています。</p>		身体拘束や高齢者虐待防止について、熟知出来るように、今後も社内研修に取り入れ、知識向上に努めていきたい。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>サービス提供前に契約書・重要事項説明書などを説明し、同意を頂いている。また、解約時には十分に話し合いを行い、不安を少なくして頂き、納得のいく退去先に移れるように支援している。</p>		今後も、十分な説明を行い、理解・納得を図っていきたく思います。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見や苦情、不安に思っている事を、さりげなく声を掛けて伺うようにしている。また、ご家族からも、ご利用者様の情報を都度、お伺いするようにして解決に向け取り組んでいる。		個別にご意見やご要望を尋ねるようにしている。ご利用者様の思いを受け止め、今後も安心してサービスを受けられるように努めていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	面会時に健康状態や暮らしぶりについて、お話している。来られないご家族には電話で報告を行っている。また、2か月に1度、お便りで知らせ、金銭収支も記載している。		ホーム便りの発行も、年2回から季節ごとの、年4回に増やしている。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居時に、外部機関の説明をし、重要事項説明書にも記載し、ホームにも苦情相談窓口がある事をお話している。又、意見箱や面会簿の記入欄を利用し、気軽に書いて頂けるようにしている。		苦情が出た際には、速やかに苦情相談報告書に記入し、検討・改善に努めていきたい。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	個別に意見や提案を聞いたり、定期的にフロア会議を開催し、意見交換の場を設けています。		今後も、直接介護をしている職員の声を重視し、運営に反映出来るように努めていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	対応が出来るようにプラスの職員を確保するように、心掛けている。		ヘルパー資格を持つ事務職員や、看護師免許を持つ職員が手伝いに入る事もある。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	ご利用者様へ、関わりを多くし、少しでも不安や寂しさを解消して、頂けるよう配慮している。		異動は最小限にとどめているが、その際にはご利用者様の不安な思いを受け止め、安心出来るように今後も関わり方の時間を持ち、対応していく。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p> <p>毎月、社内研修を実施している。勤務を調整し、外部研修にも出来る範囲で参加している。</p>	○	<p>資格試験を目指すように勧め、テキストや勉強方法についてアドバイスを行ったり、介護福祉士の実践試験の勉強会を開催するなど、職員のスキルアップに努めている。今後も、社内・社外研修を充実させ、各自が向上していけるように努めていきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p> <p>他のグループホームの見学や外部研修などを通じて、同業者と交流し、意見交換などをし、サービスの質を向上出来るようにしている。</p>		<p>今後も同業者との交流を大切に、サービスの質を向上させていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p> <p>職員同士の親睦を図り、業務上の悩みを話しやすいようにしている。</p>		<p>お食事会などを開き、相談しやすい雰囲気、環境を作った。また、各フロアの管理者などが、集まる機会があり、お互いに相談し合っている。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p> <p>それぞれの職員が、能力を発揮出来るようにと努めています。又、資格試験の取得も勧めている。</p>	○	<p>今後も、個々の職員が向上心を持てるようにし、目標を持てるように努めたい。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>自宅や入院先の病院で面談の機会をもったり、ホームの見学をお勧めし、ご本人が少しでも不安なく、ここでの生活を送れるよう、お話をよく聞いている。</p>		<p>見学を勧め、これからの生活の場を見てもらっている。不安に思っている事やこれまでの楽しみなどを聞き、具体的な生活援助を提案している。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p> <p>ご家族の不安に思っている事や困っている事、求めている事を聞き取り、受け止める努力をしている。</p>		<p>納得した上で、無理のない入所が出来るように見学を勧めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人やご家族が、必要としている支援を考え、出来るだけ添えるように努めている。他のサービスが適切と思えば、そのように伝え話し合っている。		ご本人、ご家族の意見をよく聞き、他のサービス利用も含めて検討し、対応している。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気などに徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居希望がある時には、十分に話し合い、事前にホーム見学を勧めている。入居時に少しでも、馴染みになっているよう、お茶を飲みながらお話しする機会を作ったり、行事への参加を勧めている。		何度でもホームを見学して頂いたりし、心情を考慮しながら、安心してサービスを開始出来るようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	一緒に過ごす事で、職員が教えてもらったり、手伝って頂き、支え合う関係を築いています。		日々の生活の中で、今後も共に学び、支え合う関係を築いていけるように支援していく。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	面会時には、ご本人の様子などをお話し、ご家族からの意見をよく聞き、より良くサービスを出来るようにしている。		ご家族の協力を得ながら、ご本人を共に支えていけるように努めていく。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人と家族間の関係を把握し、より良い関係でいられるように支援しています。		入居の際に家族関係、友人関係、交流関係を確認し、継続出来るよう支援している。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会や手紙、電話を通し関係が途切れないように支援している。		これからも出来る限り、ご本人の希望に添って、ご家族の協力を頂きながら、支援していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	ご利用者様間の相性や個々の性格に配慮しながら、気の合う仲間作りの支援をしている。お互いに支え合う関係は、出来ており、それを支援している。		一人ひとり孤立する事がないように、支え楽しく過ごせるように努めている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスが終了しても相談事などを受けている。		退所後でも、いつでも立ち寄って頂けるような、関係を作っていきたい。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向など、その都度聞くように努め、聞く事が困難な時には表情や動作から思いを探り検討している。入居時に、生活歴を伺い、その人らしい生活が継続出来るように支援している。		今後も趣味活動を応援し、個々に合ったケアを行えるよう、職員間で話し合い検討していく。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	日々の生活の中から、話を聞いたり、ご家族から聞き把握に努めています。		これからも、その人らしい生活が送れるように、支援していきます。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ご本人の1日の流れを把握し、バイタルチェックなどで、心身の状態に変化がないか見守っています。		職員同士で連絡し合い、情報交換を行っている。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご本人やご家族の話を聞き、職員で話し合いをし、サービス計画書を作成しています。		担当者会議で検討し、作成している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>		<p>ご本人、ご家族と相談しながら、現状に適した介護計画を作成出来るよう、今後も努めていく。</p>
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		<p>申し送りノートや介護記録を活用し、日々の情報を交換・共有している。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>		<p>今後も、ご要望に応えられるよう、柔軟な姿勢で対応していく。</p>
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	<p>○ 地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。</p>	○	<p>これからも継続し、楽しく交流の場を持てるよう努めていく。</p>
41	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。</p>		<p>これからも相談を行っていく。</p>
42	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。</p>		<p>地域包括支援センターの職員が、運営推進委員会に参加して下さっている。</p>



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。	協力病院へ移行するか、以前からの病院を継続するかは、ご本人・ご家族に確認し、ご希望される受診や往診に添えるよう支援している。		定期的に受診・往診・検査が受けられるよう支援している。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	協力病院の医師へ相談している。専門医の診察が必要であれば、対応も行って		定期受診を続け、職員は医師の指示を共有しながら、支援を行っている。
45 ○看護職との協働 事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	協力病院の看護師さんへ相談したり、非常勤の看護師と連携をとり、日常の健康管理を行っている。		これからも看護師との連携をとり、緊急時には、素早く対応していけるよう努める。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院時は情報を提供し、入院中は病院やご家族から経過を知らせて頂いたり、お見舞いに行ったりし、連携して早期に退院出来るように努めている。		ご家族、病院と連絡を取り合い、今後も早期退院に向けて情報交換をしていく。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	ご家族、主治医と十分に話し合い、方針を決めている。	○	必要に応じ、その方に合った機関の利用を相談している。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人、ご家族の意向を十分にお聴きして、主治医とも相談しながら、一番適した環境で安心して過ごせるように支援している。		ご本人に合った環境で、適切なケアを受けながら、より良い生活が送れるように、全体の会議で検討・準備を行っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>ダメージを極力少なく出来るように情報交換を行い、生活習慣を継続出来るように支援している。</p>		<p>今後も継続し、少しでもダメージを軽減出来るよう努める。</p>
<p>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>ご利用者様の人格を尊重し、尊敬の念を忘れないよう心掛けています。言葉かけは、敬語で行うようにしています。</p>		<p>ご利用者様は、人生の先輩として尊重し、個人の記録の取り扱いについては、十分な配慮をしています。</p>
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>自己決定や希望を表わす事が難しい方には、選択肢の中から選んで頂いたり、そのご利用者様に合わせて、自己決定が行われるように努めています。</p>		<p>ご利用者様が、自己決定出来るように支援を行っている。</p>
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>食事や入浴、催しへの参加など、ご本人の希望・ペースに合わせて対応している。</p>		<p>希望に合わせ、一人ひとりのペースに合わせた対応を行い、自由に過ごして頂けるように支援している。</p>
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>その人らしい服装が出来るよう支援している。理容・美容は、ご本人の希望を聴き、応じている。</p>		<p>季節、生活パターンに合わせた着替えを、見守りしている。おしゃれのアドバイスを求められた時には、一緒に楽しんでいる。</p>
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>嫌いな物が出た場合には他の物を提供したり、盛り付けの量の調節、食事スペースなど、個人の好みに合わせた食事が出来るように支援している。食事準備や後かたづけは職員と一緒にやっている。中には、日課として行って下さる方もいる。</p>		<p>食べたい物などを聞き、ある材料で工夫し、美味しく食べられるようにしている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	当フロアにはたばこを吸われる方はいない。飲み物やおやつについては、出来る限り好みのものを提供しています。		好みの物を個々に合わせて、日常的に楽しんでもらっている。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	トイレ誘導や声掛けが必要な方には、さりげなくサポートしている。失禁による不快感を軽減出来る限り、トイレで排泄する事が出来るように支援している。		個々の排泄パターンを職員間で把握し、気持ち良く排泄して頂き、夜間は安眠出来るように支援している。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	曜日・時間は大体決まっているが、その中で、ご自分のペースで入浴を楽しんで頂いている。		職員の見守りの中、入浴を楽しめるように支援している。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	一人ひとりの生活リズムや体調に合わせて、休息を取れるように支援している。夜間は巡視にて、安全の確認を行い、安心して眠られるように見守っている。		夜に、リビングでテレビを見られたりと、ご自由に過ごされている。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	一人ひとりの希望や状態に合わせて、家事の役割や、楽しみ事に参加されている。		個々の役割や楽しみ事を知り、張り合いのある生活を送れるように支援している。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご自分で金銭管理をされている方はいないが、希望があった時は、ご家族と相談しながら、金額が大きくなる程度で、所持してもらっている。		どこに置いたか忘れてしまう事もあるため、ご家族と相談しながら、対応している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	お散歩に出掛けたり、中庭で日光浴をするなど、外に出る機会を持っている。ご家族の協力で外食へ出掛けられる方もいる。		ホーム周辺の散策、近隣へのお散歩へお誘いしている。歩行が不安定な方には車イスを使用して頂き、負担を軽減している。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	バスレクリエーションとして、計画していたが、インフルエンザ流行により、実施出来なかった。	○	外へ出掛けられるような機会を多く持てるように取り組んでいきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族やご友人へ電話を掛けたい時には、いつでも掛ける事が出来る。		電話を掛けたい時には、いつでも支援出来る事をお話している。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	いつでもご家族、ご親戚、ご友人が面会され、居室やフロアでゆっくりと過ごされている。		ご家族、ご親戚、ご友人の方が来られている。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	定期的に、身体拘束廃止推進委員会を開催し、話し合いを行っている。又、社内研修にも取り入れ、学ぶ機会を持ち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		今後も継続して、身体拘束をしないケアに取り組んでいく。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	夜間は防犯上施錠しているが、日中は開けている。		夜は、遅番が退社後に掛けている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員間で様子を把握し、情報を共有しながら、安全への配慮を行っている。居室で過ごされる事が多い場合には、さりげなく訪問し、お話ししながら、様子の確認を行っている。		健康状態の把握、安全の確認に努めている。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ご本人の希望を聞き、状況を見てお渡ししている方もいるが、基本的には職員が管理している。		ご家族と話し合い、了承を得ている。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故報告書やヒヤリハットを作成し、対応について検討している。又、社内研修で事故防止について学んでおり、マニュアルも作成している。		今後も、定期的に研修を行い事故防止に、取り組んでいく。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力を得て、救急救命の受講を受けている、社内研修などで応急手当や初期対応は繰り返し学んでいる。		すぐに、対応出来るようにしている。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	避難訓練、自主訓練、夜間避難訓練などを行っている。隣接しているグループホームと協力し安全に避難出来る体制を整えている。		定期的に避難訓練や救急救命の受講を受けている。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族からの情報をお聞きしながら、対応を話し合っている。転倒や誤嚥などの危険性などについては、都度説明し、こちらの対応についても、その都度、お伝えしている。		主治医やご家族と相談し、ゆったりとした環境の中で、安全に暮らせるように努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎日のバイタルチェックやいつもの様子との違いを職員間で確認し、看護師や主治医に相談しながら、対応している。		食欲、歩行、話し方など、いつもと違いがないか確認している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個々の薬箱があり、お渡しする時は、間違いのないようお名前、日付を読み上げ、確認してから、お渡ししている。		服薬管理を行うと共に、薬の説明書を事前に確認し、安全に服薬出来るようにしている。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	体操や飲食物の工夫、医師への相談などを行っている。又、介護記録に水分量、排便状況を出来る範囲で記録し、把握に努めている。		社内研修の中でも、便秘について学んでいる。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後、歯磨きをして頂いている。不十分な方には声掛けや一部介助を行い、清潔を保てるようにしている。又、定期的に歯医者でクリーニングをされている方もいる。		歯科衛生士の資格を持つ職員へ相談する事もある。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量はおおよそ把握しており、介護記録へ記入している。食欲のない方、飲み込みの悪い方など、一人ひとりの状態に合わせて、お粥や刻み、とろみを付けるなどの工夫もしている。		体重の増減を確認しながら、盛り付け量を調節している。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外部から持ち込まれないように、来客時などには、手洗い・マスク・消毒をお願いしている。感染症マニュアルがあり、それに沿って予防に努めている。		感染症予防については、社内研修の他に、感染症委員会においても学んでいる。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	台所、布きん、まな板などは毎日、消毒を行い、食材は鮮度のいい物を使用し、賞味期限などを確認している。又、加熱にも注意を払っている。		キッチンチェック表があり、消毒などを忘れないようになっている。又、冷蔵庫内の消毒も定期的に行っている。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	中庭には、芝生や樹木が周りにあり、緑あふれる癒しの空間となっている。畑には、お花や野菜を植え、玄関には、観葉植物を置くなどし、温かい雰囲気を出せるよう努めている。		中庭に設置しているテーブルやベンチでお茶を楽しんでいる。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節の飾りなどを飾り、不快な音や光がないよう、その都度、職員が調節し、快適な環境作りに努めている。		今後も、居心地良く過ごせるよう工夫をしていく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	それぞれ、自分の居場所を確保し、ゆったり過ごされ、気軽に他者とお話しを楽しまれている。		気の合う方と、自由に過ごされている。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご本人の馴染みの家具が配置されるように、入所される段階でご家族にお伝えし、支援している。		馴染みのある家具、写真、衣類、食器などを持ち込まれている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	お掃除の際に各部屋の窓を開け、空気の入替えを行っている。温度・湿度計を設置し、調節している。		感染症予防のためにも、湿度はチェック表へ記録している。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	ホーム内は全面バリアフリーで安全に歩け、転倒につながらないようにしている。廊下、トイレ、お風呂場などにも手すりを設置している。		安全に出来るだけ自立した生活を送れるように、環境作りに努めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	居室には各自、表札をつけ、わかるようにしている。今、出来ている事を、維持しながら、自信の回復に努め、一人ひとりに合わせた、自立した生活を送れるように支援している。		調理、掃除、洗濯など、職員と一緒に楽しく行われている。
87	○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	中庭や散歩道にはベンチが置かれ、畑にはお花や野菜を植え、職員や隣接ホームの方々と楽しまれている。		中庭では、夏祭りや子供みこし、園児のお遊戯など、楽しい活動が行われている。



V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない	①
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない	①
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	④
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない	①
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない	②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない	④

V. サービスの成果に関する項目			
項目	取り組みの成果		
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない	②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	①
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない	②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

家庭的な雰囲気の中で、ご利用者やご家族の意向を聞きながら、安心して安全に生活が出来るよう努めています。又、地域の方々の協力を得ながら、地域に密着したグループホーム作りを目指しています。